

2025.12.10時点の農薬登録情報により作成

防除時期	対象病害虫	RACコード	登録農薬名	希釈倍数	水100%当り 薬剤量	使用時期	使用回数	備考
定植時	アブラムシ類・ミナミキイロアザミウマ・コナジラミ類	I:4A	ベストガード粒剤	1~2g/株	-	定植時	1回	植穴処理 土壌混和
5月~6月	灰色かび病・黒枯病・菌核病	F:10 F:1	ゲッター水和剤	1500倍	66g	収穫前日まで	5回以内	
	(褐斑細菌病・軟腐病・斑点細菌病) すすかび病	F:M01	Zボルドー	500倍	200g	発病前~発病初期	-	(野菜類登録) なす登録:すすかび病
	アブラムシ類・テントウムシダマシ類	I:4A	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	4000倍	25g	収穫前日まで	3回以内	
	アザミウマ類・コナジラミ類			2000倍	50g			
	ミナミキイロアザミウマ・コナジラミ類・アブラムシ類・ハモグリバエ類 カメムシ類・テントウムシダマシ類	I:4A	ダントツ水溶剤	2000倍	50g	収穫前日まで	3回以内	
	ハスモンヨトウ・コナジラミ類	I:15	ノーモルト乳剤	2000倍	50cc	収穫前日まで	2回以内	
灰色かび病・菌核病・黒枯病・すすかび病・褐色斑点病	F:2	ロブラール水和剤	1000倍	100g	収穫前日まで	4回以内		
7月~9月	灰色かび病・黒枯病・すすかび病・うどんこ病	F:M05	ダコニール1000	1000倍	100cc	収穫前日まで	4回以内	
	褐色腐敗病	F:21	ランマンフロアブル	2000倍	50cc	収穫前日まで	4回以内	
	灰色かび病・うどんこ病・すすかび病	F:M07	ベルケート水和剤	3000倍	33g	収穫前日まで	3回以内	
	ハスモンヨトウ・ハモグリバエ類・アザミウマ類・オオタバコガ	I:UN	プレオフロアブル	1000倍	100cc	収穫前日まで	4回以内	
	ハモグリバエ類・オオタバコガ・ハスモンヨトウ	I:28	プレバソフロアブル5	2000倍	50cc	収穫前日まで	2回以内	
	コナジラミ類・アザミウマ類・ハモグリバエ類・オオタバコガ・ハスモンヨトウ	I:5	ディアナSC	2500倍	40cc	収穫前日まで	2回以内	
ハダニ発生期	ハダニ類・チャノホコリダニ	I:21A	ピラニカEW(劇)	2000倍	50cc	収穫前日まで	1回	
	ハダニ類・チャノホコリダニ・コナジラミ類・ハモグリバエ類	I:6	コロマイト乳剤	1500倍	66cc	収穫前日まで	2回以内	
	ハダニ類・チャノホコリダニ	I:25A	スターマイトフロアブル	2000倍	50cc	収穫前日まで	1回	
	ハダニ類	I:25A	ダニサラバフロアブル	1000倍	100cc	収穫前日まで	2回以内	
	ハダニ類	I:21A	ダニトロンフロアブル	2000倍	50cc	収穫前日まで	1回	
うどんこ病発生期	うどんこ病・チャノホコリダニ	I:UN F:M10	モレスタン水和剤	2000倍	50g	収穫前日まで	3回以内	
	うどんこ病・すすかび病	F:3	トリフミン水和剤	3000倍	33g	収穫前日まで	5回以内	

他 登録薬剤	対象病害虫	RACコード	登録農薬名	希釈倍数	水100%当り 薬剤量	使用時期	使用回数	備考
合成ピレスロイド等「蜜」に留意	アブラムシ類・ハダニ類・オンシツコナジラミ	I:3A	テルスター水和剤	1000倍	100g	収穫前日まで	3回以内	
	アブラムシ類・オンシツコナジラミ・テントウムシダマシ類・カメムシ類	I:3A	アディオン乳剤	2000倍	50cc	収穫前日まで	3回以内	

除草剤	対象雑草	RACコード	登録農薬名	散布液量	使用量	使用時期	使用回数	備考
	1年生雑草(ツユクサ科・カヤツリグサ科・キク科・アブラナ科を除く)	H:3	トレファノサイド粒剤2.5	-	4~5kg/10a	定植前(植穴掘前) 全面土壌散布	1回	露地栽培のみ
	1年生雑草	H:10	バスタ液剤	100~1500/10a	300~500ml/10a	収穫前日まで(雑草生育期耕起前、定植前、又は畦間処理)		

植物成長調整剤	目的	RACコード	登録農薬名	希釈倍数	処理時期	使用回数	備考
	着果促進・果実肥大促進・熟期の促進	-	トマトーン※	50倍	開花当日	1花房当たり1回	花房が濡れる程度噴霧

※トマトーン1本20mlを水量1ℓで希釈する

土壌消毒剤	対象病害虫	RACコード	登録農薬名	散布液量	使用量	使用時期	使用回数	備考
	半身萎凋病・ネコブセンチュウ・苗立枯病(リゾクトニア菌) 1年生雑草・青枯病・白絹病	I:8F	ガスタード微粒剤(劇)	30kg/10a		播種または定植21日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する

○10a当りの散布量 5月期=150% 6月期=200% 7月以降=250% を散布目安とする。  
○使用時期の「収穫前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より「24時間」を経過するまで収穫できないことを示します。

○ジェイエース粒剤、オルトラン粒剤、オンコル粒剤は、なすに使用できなくなりました。絶対に使用しないこと！

**留意事項** \*育苗期に直径の小さいポットに薬剤散布を行うと薬害を生じる場合があるので、9cm以上のポットを用い散布液量に注意する。

\*ハダニ類は、高温乾燥の時期に発生が多くなるので注意する。又、薬剤抵抗性が発現しやすいので同一RACコード薬剤の連用を避ける。

**適正管理について！**

1. 病害虫の発生状況・予察に留意しながら予防・発生初期防除を心がける。
2. 圃地の適正な排水管理を行う。
3. ドリフト軽減ノズルや防葉ネット等を出来る限り使用する。
4. みつばちへの配慮を行う。

**防除器具の農薬残留に留意！！**

- ・防除器具は、前回散布後に充分洗浄したか確認し、散布当日も薬剤調整前にもう一度通水し洗浄しましょう。
- ・防除器具は使用后、通水で3回以上洗浄しましょう。
- ・洗浄水は川や下水等に流さないようにしましょう。